

市内遺跡発掘調査報告書

2004年

宮崎県串間市教育委員会

市内遺跡発掘調査報告書

莊屋堀地点

大東苗場遺跡

2004年

宮崎県串間市教育委員会

序

串間市内には各時代各種の埋蔵文化財が数多く点在しています。串間市教育委員会ではこれらの文化財を先人の残してくれた貴重な遺産と捉え、後世に伝え残すことが現代に生きる者の責務であるとの認識に立ち、その保護と活用に努めておりますが、各種の開発事業・造成工事等が埋蔵文化財に影響を与える場合が多く、文化財保護と各種事業との調整が慢性的な課題となっています。このような状況の中、当教育委員会では各種事業が市内に分布する埋蔵文化財に影響を与えることが危惧される場合には事前の試掘調査ないし確認調査を実施し、埋蔵文化財の有無・範囲・性格等を把握して文化財保護のための協議資料としています。

本年度は、荘屋堀地点、大東苗場遺跡についての試掘調査を行い、その成果を当報告書として刊行することとなりました。当報告書が今後の文化財保護への理解に役立つとともに生涯学習・学校教育等の場において広く活用されれば幸いに存じます。

最後になりましたが、調査を実施するにあたってご協力いただきました関係諸機関並びに市民の皆様に対しまして、心より感謝申し上げます。

平成16年3月

串間市教育委員会

教育長 五 島 千穂子

例　　言

1. 本書は宮崎県串間市教育委員会が国県の補助を得て平成15年度に実施した市内遺跡発掘調査の報告書である。
2. 発掘調査は、市内に所在する埋蔵文化財が包蔵される可能性のある地点のうち、莊屋塙地点（大字奈留字莊屋塙）及び大東苗場遺跡（大字奈留字揚原）について試掘調査を実施した。
3. 発掘調査は、串間市教育委員会が主体となり実施した。
4. 調査組織は以下のとおりである。

調査主体 串間市教育委員会

教　育　長	五島千穂子
生涯学習課長	利田幸満
文化振興係長	宮田浩二（調査・執筆・編集）
主　　事	宮田泰洋（庶務）
発掘作業員	川崎健治、川崎知子、河野純子、河野正道、川原田ミホ子 鈴木正和、竹内秀昭、津曲政子、中野郁美子、中村光子 原ノリ子、前田信幸、水元栄子、水元みきえ、吉田俊枝
整理作業員	川崎知子、中村光子
調　　査　指導	宮崎県教育委員会文化課

5. 遺跡の名称は小字名ないし通称による。
6. 報告書抄録中の緯度・経度は国土地理院発行「1：5,000国上基本図」による。
7. 出土した遺物は串間市教育委員会で保管している。

目 次

本文目次

頁

第Ⅰ章 莊屋堀地点の調査	
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査地点の位置と環境	1
第3節 調査の内容	2
第Ⅱ章 大東苗場遺跡の調査	
第1節 調査に至る経緯	5
第2節 遺跡の位置と環境	5
第3節 調査の内容	6～9
第4節 小結	9
報告書抄録	16

挿図目次

第1図 莊屋堀地点位置図	1
第2図 莊屋堀地点概要図	2
第3図 大東苗場遺跡位置図	5
第4図 大東苗場遺跡概要図	6
第5図 大東苗場遺跡基本土層模式図	6
第6図 大東苗場遺跡トレンチ配置図	7

図版目次

図版1 莊屋堀地点調査状況写真	3～4
図版2 大東苗場遺跡調査状況写真	10～15

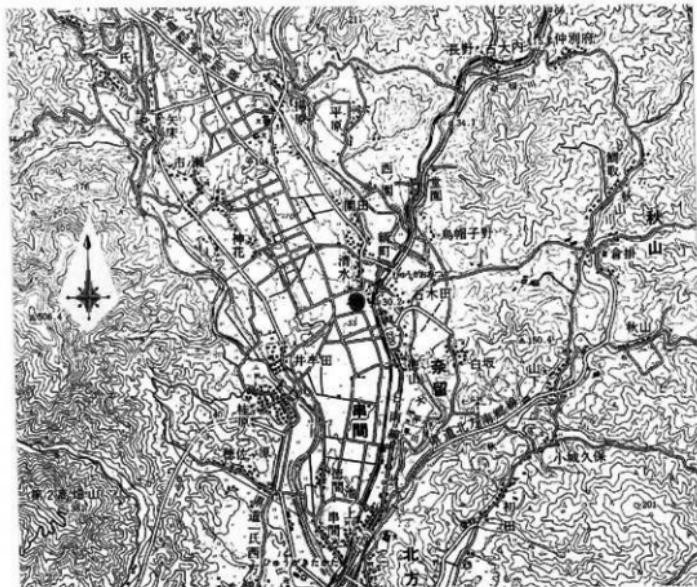
第Ⅰ章 荘屋堀地点の調査

第1節 調査に至る経緯

莊屋堀地点の調査は、携帯電話無線基地局建設計画に起因する。平成15年8月、事業主からの予定地における文化財有無照会を受け、串間市教育委員会では踏査を行った。踏査の結果、地形上埋蔵文化財の存する可能性があったため、試掘調査が必要であることを事業主に回答し調査に着手した。試掘調査は平成15年9月2日から9月3日にかけて実施した。

第2節 調査地点の位置と環境

調査地点は、宮崎県串間市大字奈留字莊屋堀に所在する。串間市は宮崎県の最南端にあって日向灘・志布志湾に面する延長7kmの海岸線を有し、年間を通して温暖な気候に恵まれた環境にある。大字奈留地区は市域の北部内陸部にあり、そのほとんどが山林と戸入火碎流（通称シラス）を起源とする台地である。市域を南北に縱貫する福島川とその支流である大平川の間には大東原と称する広大なシラス台地が展開し、調査地点は当台地の大平川沿い縁辺部（標高約50m）に立地する。調査地点周辺の遺跡としては、大平川沿いに3kmほど北側の奈留地区遺跡（縄文時代早期中心）、1kmほど北側の西ノ園遺跡（縄文時代草創期）、800mほど南側の徳山地下式横穴群などがある。



第1図 莊屋堀地点位置図 (1/50,000)

第3節 調査の内容

調査対象面積は140m²、現況は雜木地で、ここに計3本のトレンチを設定して調査を行った。各トレンチでの状況は以下のとおりである。

1号トレンチ

調査対象地の北西隅部に南北を長軸に設定(3×1.5m)した。黒色の腐植土の下は黒色土で底部に黄色ボラ粒子(御池?)を含み、アカホヤ火山灰層を挟んで硬質黒褐色土、やや明るい黒色土となる。アカホヤでの旧地形は緩やかに南東へ傾斜し、黒褐色土中で少量の礫が出土した以外は遺構・遺物とともに認められなかった。

2号トレンチ

調査対象地の北東部に東西を長軸に設定(2.5×1.5m)した。厚さ約20cmの腐植土の下層は約70cmの黒色土で以下はアカホヤ、黒褐色土となる。2層で土器1点(弥生?)が出土するが、これ以外の遺構・遺物は認められなかった。

3号トレンチ

調査対象地の中央やや東寄りに設定(2×2m)した。厚さ約15cmの腐植土の下は黒色土、ややしまる黒褐色土、アカホヤ、硬質黒褐色土、やや明るい黒色土となる。5層で礫が出土の他は遺構・遺物は認められなかった。

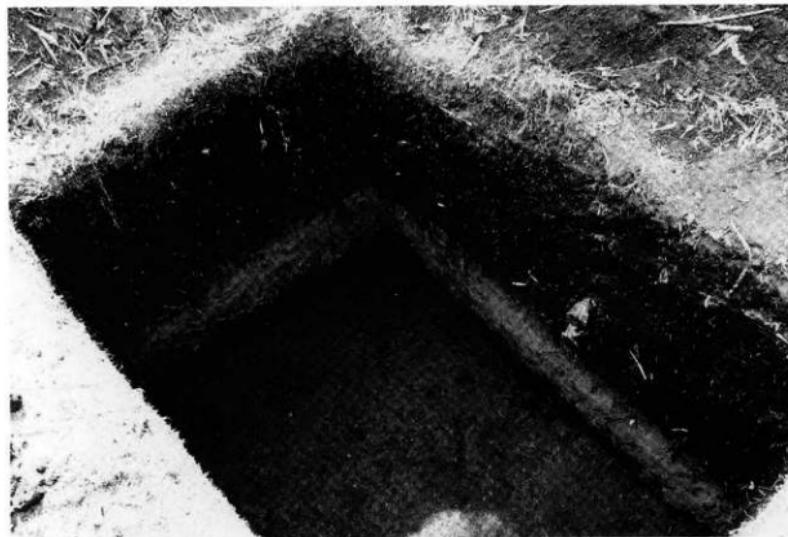


第2図 庄屋堀地点概要図 (1/5,000)

図版1 荘屋堀地点調査状況写真



調査地点遠景



1号トレンチ

図版1 荘屋堀地点調査状況写真



2号トレンチ



3号トレンチ

第Ⅱ章 大東苗場遺跡の調査

第1節 調査に至る経緯

大東苗場遺跡の調査は、公園整備計画に起因する。当地は同目的により平成15年度において串間市が購入、近い将来において事業が展開されることが予想される。面積が広大なこともあります、串間市教育委員会では本年度において文化財の有無を確認することとした。

第2節 遺跡の位置と環境

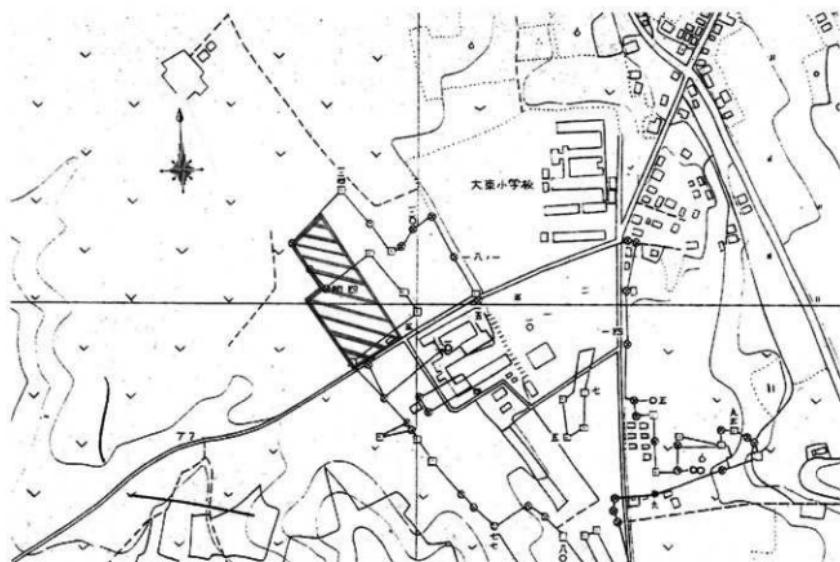
大東苗場遺跡は、宮崎県串間市大字奈留字揚原に所在する。大字奈留地区については第Ⅰ章第2節に前述したが、大東苗場遺跡も同地区の大東原台地上の立地で、位置的には台地の最北部（標高約85m）にあたる。周辺遺跡としては、福島川を3kmほど遡る三幸ヶ野遺跡（縄文後期）、三幸ヶ野第2遺跡（縄文草創期・早期）、大平川を4kmほど上流の大平遺跡（縄文草創期～後期）、1kmほど上流の向鶴第1遺跡（縄文早期）などの調査例がある。



第3図 大東苗場遺跡位置図 (1/50,000)

第3節 調査の内容

調査対象地（約12,000m²）は、近代、スギの育苗場として土地活用され、遺跡名もこれに由るが、現況としては荒蕪地となっている。調査は当地に計15本のトレンチ（2×2m標準）を設定して行った。当地における土層及び各トレンチの状況は以下のとおりである。

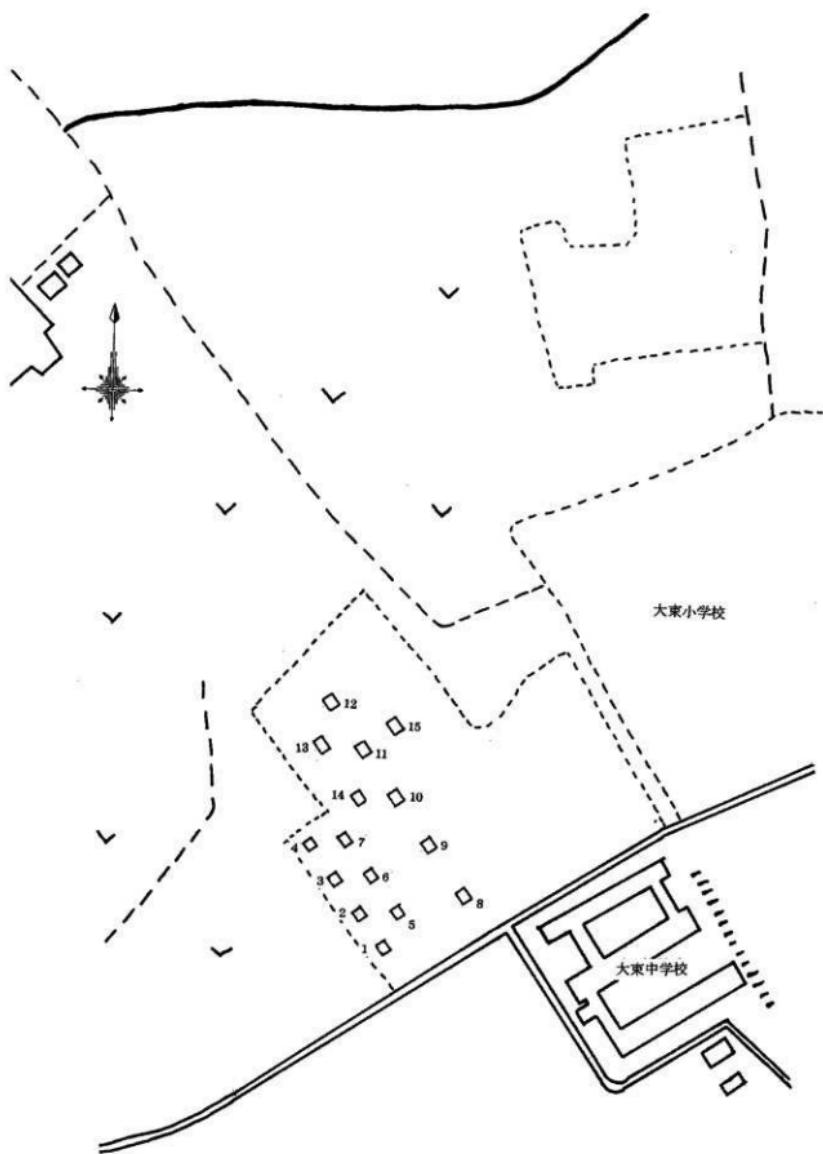


第4図 大東苗場遺跡概要図 (1/5,000)

- I層：黒色土にアカホヤブロックや粒子を含む（造成土）
- II層：ゆるい黒色土
- III層：アカホヤ火山灰
- IV層：硬質黒褐色土
- V層：硬質暗褐色土
- VI層：褐色土に薩摩火山灰を含む
- VII層：褐色土（場所により黒色塊を含む）
- VIII層：AT

I
II
III
IV
V
VI
VII
VIII

第5図 大東苗場遺跡基本土層模式図



第6図 大東苗場遺跡トレンチ配置図

1号トレント

I層(35cm)の下はⅢ層(30cm)となり、Ⅲ層上位はI層に切られている。以下はIV層(30cm)、V層(15cm)、VI層(15cm)、VII層(40cm)までを確認し、旧地形は若干南へ傾斜する。

2号トレント

I層(30cm)の下はⅢ層(30cm)、IV層(20cm)、V層(25cm)、VI層(15cm)、VII層(50cm)、VIII層となる。旧地形はⅢ層底部で北東へ、VI層では北西へ傾斜する。IV層で石錐出土。

3号トレント

I層(40cm)の下はⅢ層(40cm)となり、以下はIV層(25cm)、V層(20cm)、VI層(15cm)、VII層となる。旧地形は若干南へ傾斜する。

4号トレント

I層(35cm)の下はⅢ層(30cm)となり、Ⅲ層上位はI層に切られている。以下はIV層(20cm)、V層(30cm)、VI層(20cm)、VII層となる。旧地形はほぼ平坦。

5号トレント

I層(35cm)の下はⅢ層(45cm)だが、Ⅲ層の上位は若干の削平を受けている。以下はIV層(15cm)、V層(25cm)、VI層(20cm)、VII層となる。旧地形はほぼ平坦で、V層より貝殻条痕文土器が出土している。

6号トレント

I層(30cm)の下はⅢ層(50cm)だが、Ⅲ層の上位は削平を受けている。以下はIV層(25cm)、V層(30cm)、VI層(15cm)、VII層となる。旧地形はほぼ平坦。

7号トレント

I層(25cm)の下はⅢ層(45cm)となるが上位で削平を受けている。以下はIV層(15cm)、V層(20cm)、VI層(15cm)、VII層となる。旧地形はほぼ平坦。

8号トレント

I層(60cm)の下はⅢ層(40cm)となり、以下はIV層(20cm)、V層(30cm)、VI層となる。旧地形はほぼ平坦。

9号トレント

I層(25cm)の下はⅢ層(40cm)となるが上位で削平を受けている。以下はIV層(20cm)、V層(25cm)、VI層(15cm)、VII層となる。旧地形はほぼ平坦。

10号トレント

I層(20cm)の下はⅢ層だが、Ⅲ層は底部が部分的に残る程度の残存状況の悪さで、以下はIV層(15cm)、V層(25cm)、VI層(15cm)、VII層となる。旧地形はほぼ平坦。

11号トレント

I層(30cm)の下はVI層(5cm)となり、以下はVII層(70cm)、VIII層となる。旧地形はほぼ平坦。

12号トレント

I層(30cm)の下はⅢ層(15cm)となるが、Ⅲ層は削平を受けている。以下はIV層(20cm)、V層

(25cm)、VI層となる。旧地形はほぼ平坦。

13号トレンチ

I層(25cm)の下はIII層(10cm)で、III層は底部が部分的に残る程度の残存状況の悪さで、以下はIV層(20cm)、V層(20cm)、VI層(15cm)、VII層となる。旧地形はほぼ平坦。

14号トレンチ

I層(30cm)の下はIV層(20cm)となり、以下はV層(20cm)、VI層(15cm)、VII層となる。旧地形はほぼ平坦。

15号トレンチ

I層(30cm)の下はIV層(20cm)となり、以下はV層(20cm)、VI層(15cm)となる。旧地形は若干北東方向へ傾斜し、V層で礫が出土、土坑状落込を確認している。

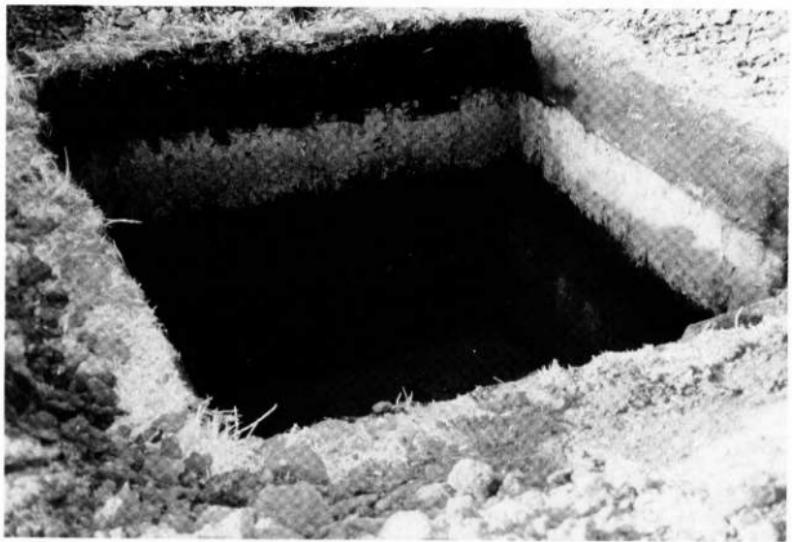
第4節 小結

遺跡の現地形はほぼ平坦であるが、調査の結果、旧地形は11号トレンチあたりを頂点とする小丘陵状を呈していたものと推察される。各トレンチに見られるようにIII層アカホヤないしIV層硬質黒褐色層までが部分的な削平を受けており、これらを破壊するI層の土質は新しいものであることから、削平は育苗場を造る際か、明治期の入植開墾時のものと思われる。遺構の検出は15号トレンチでの土坑状落込、出土遺物は縄文早期上器片数点、石礫1点、礫にとどまった。アカホヤ以下の上層は良好な状態で残存堆積しているものの、土地の利活用頻度は低かったものと思われる。

図版2 大東苗場遺跡調査状況写真



調査地点遠景

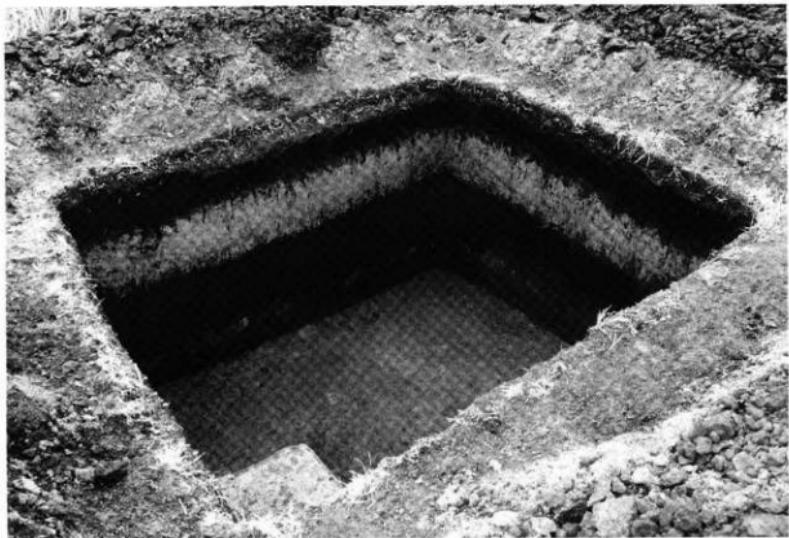


1号トレンチ

図版2 大東苗場遺跡調査状況写真



2号トレンチ



3号トレンチ

図版2 大東苗場遺跡調査状況写真



4号トレンチ



5号トレンチ

図版2 大東苗場遺跡調査状況写真



9号トレンチ



10号トレンチ

図版2 大東苗場遺跡調査状況写真



11号トレンチ



12号トレンチ

図版2 大東苗場遺跡調査状況写真



14号トレンチ



15号トレンチ

報告書抄録

フリガナ	シナイセキ
書名	市内遺跡発掘調査報告書
シリーズ名	串間市文化財調査報告書
シリーズ番号	第25集
編集者名	宮田浩二
発行機関	串間市教育委員会
所在地	宮崎県串間市大字西方6524-58
発行年月日	平成16年3月31日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
ショウヤボリ 莊屋堀地点	クシマ ナル 串間市大字奈留 ショウヤボリ 字莊屋堀	31° 30' 20" 付近	131° 14' 50" 付近	20030902 20030903	10m ²	携帯電話 電波基地
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
散布地	一	なし		なし		
フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
オツヅエバ 大東苗場遺跡	クシマ ナル 串間市大字奈留 アゲバ 字揚原	31° 40' 10" 付近	131° 14' 00" 付近	20040226 20040317	60m ²	公園整備 計画
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
散布地	縄文早期	土坑?		貝殻条痕文土器、 石鏃		

串間市文化財調査報告書第25集

市内遺跡発掘調査報告書

2004年3月

発行 宮崎県串間市教育委員会
印刷 (有)串間新生社印刷